

## 2020年度懇話会報告

懇話会名 機械の音と振動研究懇話会  
代表者名 宇津野秀夫  
委員数 49名  
集会回数 2回  
設置年月日 平成5年7月

### I 研究会活動

例年は3件の懇話会活動を行っているが、企画済みだった秋季技術交流フォーラムを中止し、関西地区の若手交流会も対面での交流ができないため不開催とした。このため秋の講演会（第71回）と、昨年度コロナ禍で中止とした金子先生の講演会を本年度3月（第72回）に開催し、都合2件の活動となった。

○第73回懇話会（2020年11月7日） zoom講演会 参加者35名  
振動談話会と共催。

〔座長 宇津野秀夫（関西大）〕

【基調講演】 「自励振動の仕組みを考える」 栗田裕（大阪産業大学）

【基調講演】 「複合材料積層板の振動解析と最適化について」  
成田吉弘（大和大学，北海道大学名誉教授）

○第74回懇話会（2021年3月26 or 29日） zoom講演会 参加者未定

講演題目 「モデル化研究の遍歴：流体関連振動から始まりエンジン制御に至るまで」

講演者 東京大学 工学研究科 機械工学専攻 名誉教授 金子成彦先生

講演概要 学生時代を含めるとほぼ40年間の長きにわたり日本機械学会機械力学・計測制御部門の皆様にお世話になりました。研究では、学生時代に始めた流体関連振動の研究を継続し、関連研究者のご協力を得て、この分野に関係する書籍を5冊発行することができました。また、40代から始めた分散エネルギーシステムの研究を出発点として、東日本大震災以降のレジリエンス強化や実走行時の燃費向上に資する自動車用内燃機関のリアルタイム制御アルゴリズム構築に発展させることができました。さらに、自分自身が遭遇した交通事故を契機に始めた運転者の体調モニタリングシステムの研究は、交通事故の未然防止や自動運転に関係するテーマとして注目されてきました。このような研究活動に共通するものは、問題設定とモデル化技術です。この講演では、振動問題のモデル化の研究者だった講演者が社会問題に関心を持つようになり、社会実装するための研究を実施するようになるまでの流れについてお話しします。

### II その他の活動

騒音に関する講習会の講師派遣，第96期定時総会講演会の企画を支援した。

以上